災害調査で得た教訓

教授 森山修治

とのことである。それぞれ車避難の特徴が表れている事例である。津波からの避難に車を利用することは渦巻のリスクが大きいことがある。高台までの距離が大きい平野部では、特に高齢者や身障者のような災害時に要支援者は車に依存するしかないとありが、そのためには避難後に近所同士で相乗りするなどの渦巻緩和のための社会的なルール作りが必要である。さらに、車を避難に使う場合には、いざとなれば空き地等に車を乗り捨て、早めに近隣の建物や高台に避難する覚悟が必要である。

教官指導者避難の難しさ

南三陸町はリアス式の沿岸で周囲を山に囲まれている地形である。そのため、狭隘な谷間で水が集中し、津波浸水区が10kmを超え、調査に向かう車からは、海岸から離れた山間部の集落にまで津波被害が及んでいるのを目とりにし衝撃を受けて言いたいことがある。一方、土地に傾斜があるため、高台屋敷には殆ど水が引いており、津波避難ビルから高台の避難所への踏破避難が可能である。南三陸町では128の建物で、地形によりインパクトが大きかった。まず主病院である。重症の入院患者はもっとも3階にいたが、津波が有力な大津波の警戒を受けて4階に移動した。しかししながら津波により4階で水没し、屋上で避難できた患者や職員のみが助けた。この事例は災害時の要介護避難者の避難、とりわけ階段を上昇しなければならない避難避難の難しさを示している。もう一例は主病院の近い町営住宅の例である。近隣住民や避難する町営住宅で部活中だった高校生17人を含む44人が、4階建ての屋上を膝まで水に浸かりながら一夜を過ごし全員が助けた。高校生たちは地震直後から公園の落ち葉の間で町営住宅の屋上に誘導されたとのことであり、適切な判断に基づく誘導が被災を少なくする好例である。またこの日は、高校生たちは水の引いた瓦礫の中を歩いて避難所まで無事に移動していた。

おわりに

多くの調査結果は、決断が早いほど、より安全な場所への避難が可能であることを示している。また避難開始が遅れた避難に車を利用する傾向も見て取れた。当たり前のことをあるのが正確な情報を適切な判断が生死を分けることになる。日頃から“心の備え”が重要である。

注）津波避難ビル

津波避難ビルとは、津波時の避難所である高台が遠く、津波到達時までに逃げ歩けないと判断した避難住民が押し込むために自治体が指定している建物である。殆どの自治体が台風避難を優先としており、津波避難ビルは一時的な避難場所である。
学生の活躍紹介

日本建築家協会（JIA）主催第21回東北建築学生賞で、本学科4年次生の柳沼明日香さんの作品「鼓動する橋」が最優秀賞を受賞されました。ここに記して祝うとともに、建築に対する考え方を執筆してもらいました。
また建築学会主催のグローバル化人材育成プログラムに参加した3年次生の安東大毅君にも寄稿依頼しました。

私の設計課題への取り組み方

4年次生 柳沼 明日香

貴重な紙面を割いて頂き、私の設計に対する挑戦と願い
を述べる機会を与えられていることに戸惑っていますが、
折角ですので少しでもお付き合い下さい。私は、建築学院に入学して以来、学内の演習課題や学外のコンペなど
も含めて多大な設計課題に取り組んできましたが、
自分が福島県内の長年に渡る影響から、大規模な地域計画を考
えるより、自分と家族が直面している課題に迫った設計に寄せ
て建築を考える傾向にあると思います。具体的に、自身の
身近な生活に関わる建築というのちは、自分が思い付くま
ま好き勝手に考え表現するということではなく、課題は
地域を丁寧にとげ、風土を熟知し、多くの人の意見を聞く
て、それを解釈しながら自分とつながっている
であろう現代の人の暮らしを深くかかわる建築を目指
す。その築き上げられた姿を想像し表現す
るというものです。それを基盤として、それに取り
ための成果、空間構成、デザインなどを実現できる素材、
構法を選択し、建築として統合していく感じで取り組んで
います。

例えば、直近の4年前期の東北に外国人観光客を呼べ
る名所をつくる課題で、目新しい観光客を増やすような
テーマパークの建築には提案を出し、地域の伝統的な
土壌の記憶の誘導を目指し、古くから守られてきた伝統
鮭漁の歴史を段階的に100年かけて再構築する内容とし
ました。仮設的に設置される仮の架構を伸長し、滑車を
用いて水平にもできる仕掛けによって水上の情を感じ
る床となり、その下では鮭が週上する。また、漁を行わな
い時期は橋として機能する傍ら、地域の祭りなどの行事
も受け止める場を目指した。それらは、従来の築き
のイメージを逸脱しない細い柱や梁、ワイヤーを通し滑
車で操作できる床面、また竹で作られた築も含めて、そ
らを受け止めるおおらかな一枚屋根のデザインによっ
て統合させました。

個人的に建築を考えたり設計することは好きな方だと
思いますが、独り善がりになって建築がひとり立ちしな
いためにも、現実化するまでの時期はアプローチを心が
けています。特に、現状では様々な角度から建築を
捉える姿勢が大事だと思う課題に取り組んでいます。

建築学会ワークショップに参加して

3年次生 安東 大毅

日本建築学会が主催するグローバル化人材育成プログラム『世界で建築をつくるぞ！ —グローバル建築デザイン・マネジメント・エンジニアリング分野への入門』が8月24日から2日間わが国で東京三田の建築学会館で開催され、参加した。建築家の面研吾氏はじめ、今
まずに世界で活躍する5人の講師が持ち回りで講義を行
い、そこで示された課題の答えを時間内に絞り出す形の
ワークショップであった。

講義は、世界的な建築家さんたびに日本に求められる建築デザ
イン・技術など、ハードからソフトまで多岐にわたり、
課題は、例えばインドネシアに建設予定の空港とその
周辺都市の開発について議論を交わすといった鮮度の良
い話題が用意されており、総じて答えのないものであったが、
それでも模索しようとする豊かな光景が織り広げられた。
関心は同じでも視点が異なる学生が、議論することを通
して、見聞を深めていく感覚は、私に強烈な印象を残
した。わずかな期間ではあったけれど、そこで新たな仲
間に出会えたこと、彼らと夜更けまで語り合ったこ
とは、期間の短さを超えて、色濃く、豊かなものであっ
た。この経験を糧に、これからも、外に向かって活動を
広げていきたいと思っている。
鹿島建設オープンデスク・インターンシップ

福島市で現在工事が進められている、福島赤十字病院施設整備事業（移転新築工事）の工事現場事務所に依頼し、平日の5日を基本としたインターンシップ・10日間実施するオープンデスクを実施、参加希望者は12名が8月から9月中旬にかけて参加しました。ここでは学生が提出したレポートをもとに編集した内容を掲載します。

3年次生 南 匠佐

オープンデスクとして10日間現場に伺い、大学の講義では学べないことが毎日様々な現場で見ることができ、様々な経験をさせていただきました。専門的な知識の必要性を痛感しましたが、それを同時に職人の皆さんに信頼される人になることをと、感じました。また、施工管理職も図面を描くこともあることを知り、仕事内容のイメージを変えられました。

さらに我々学生の担当についていただいた日大卒の女性新入社員の方が、自身の仕事が忙しいにも関わらず、学生の疑問に一つ一つ丁寧に答えいただきました。就職活動や新入社員としての大変なことも知ることができ、今後の進路を考えていく上でとても参考になりました。

3年次生 安藤 紙弥

図面で描いたものから現実に建物が完成するまでの工事を建築施工の講義で学び、自分の目で現場を体感してみたいと考え、インターンシップに参加しました。現場では新卒の女性社員の方が、大勢の職人の前で堂々と今日の仕事の流れを説明する姿に驚れました。1日目学んだことは、現場では頭の中で常に何がこうなっているの？どうして？忘れないことです。初日の午前中は現場の概要的な部分を教えていただき、午後からは配筋検査を行い、画期的な検査シートにふれ、最先端のものづくりに携わりました。残りの4日間もCFTコンクリート打設など全てが貴重な体験でした。

今回のインターンシップを通じて、ものづくりの現場では人とのコミュニケーションの大切さを学びました。女性社員の方の姿から、現場の管理だけでなく働く人たちの体調や仕事全体の仕事が実感できました。

3年次生 寺沢 凪成

後期ガイダンスを挟んだ参加のため、1日現場を見なないで現場が変化していることに驚きました。まるで生き物のようになる建物や現場は成長していきました。順調に成長させるために、1日の作業を現場全員で共有し危険を予知し、昼には明日のことを話し合います。職人さんたちがコミュニケーションを取り合い、話しやすい家族のような組織体制を作り上げていることに気づきました。些細な事柄でも報告し相談し合う現場でした。

インターンシップを通じて材料が建築の雰囲気や空間感を伝えることを実感し、材料の大切さを知りました。教科書に載っていることは、現場で感じる情報量に比べれば砂砂たるものなのかもしれません。

大和ハウス工業福島支社
オープンデスク・インターンシップ

郡山市内の福島支店では、住宅営業、戸建住宅・一般建築の3部門で事業展開がなされています。8月上旬から約1ヶ月間、オープンデスクとインターンシップを希望する職種部門で受け入れて実施し、8名の学生が参加しました。ここでは学生が提出したレポートをもとに編集した内容を掲載します。

3年次生 阿部 麻里奈

私は住宅営業部で研修しましたが、その業務の余裕が分かった住新住宅であること。また、営業職であっても一定の仕事を行うことに気がつき、部分住宅営業、分譲地、展示場やオープンデスク、営業センター、事務系統、労働組合などの金融会社、不動産業、マンション等、沢山の現場を見る機会に恵まれました。学生としてはなかなか体験できない貴重な機会であり、とても勉強になりました。

営業の皆さん、各展示場や現場の方、そしてお客様と話し、多くの事を収穫しました。「営業は最初から最後まで色々な面でお客様をサポートするから、設定や現場での責任は全て営業が負う。1番大変で1番やりがいがある」と営業の皆さんから伺ったことが印象深かったです。

3年次生 畠野 美里

今回オープンデスクでは、大学生活では学べられない実用的な内容を教えていただきました。特に図面の書き方については、社員の方々に詳しく教えていただき大変勉強になりました。私自身、営業体験自体初めてであり、今回の10日間は何よりも新鮮でとても良い経験ができたんです。そして実際に営業で働く社員の方々の姿を見て、皆様が仕事に対してやりがいを持ち続ける責任感をもって働く姿にとても刺激を受けました。また働くとということは、多くの知識や技術と経験が必要であることを痛感しました。今後の成長の学生生活の中では、自分に足りないものを努力をしていきたいと思います。

また今回、オープンデスクでは社員の皆様と食事をご一緒させていただく機会に恵まれ、その心遣いにとても感謝しております。就職活動のごお話、仕事についてのお話、その他いろいろな話をすることができ、とても良い時間を過ごさせていただきました。
アカシア教育山脈（下）
－工学部（建築学科）を支えた校友教員－
前 土木工学科特任教授（建築22回） 永 田 進

■東海編
秀峰富士の麓・静岡県は昭和30～50年代4,000名を超える生徒数を誇る全国屈指の大規模校・附属小高い所在地。定時、工学部の在籍者は1割強の500名前後の県内出身の学生がいた。その後、近隣の首都圏・中京圏への進学者の増加により大幅に減少している。それでも近年の在籍者は150名前後であり、関東以西では軽く抜いている。このような箱根・白糸の間を越えて多くの入学者がいるのも、開設以来70年後に及ぶ教職員の奉仕の成果、卒業生の活躍はもちろんあるが、強い母校愛を持った工高を中心とした校友教員の大なる力があったからこそである。

昨年創立100周年を迎えた伝統校・浜松工高は8名もの校友教員が在籍。名倉善章（27回）は浜松工大前期部が初校、その後全国唯一の林業高校であった天竜林業校（現・天竜高）へ異動。木材を主軸とした建築教育の展開に奮闘、現在は再任用教師として母校帰り、永年の教育経験を後援する校友教員に伝授している。その名倉のもとに、女性教員としてその特性を生かし奮闘している大場洋子（56回）、共に宮城県石巻工高出身の武山真也（61回）、千葉祐樹（60回）が、大高は親子2代の日大卒の工学教員。御父は理・電気工を卒業。県内の工高に勤務。工学部には大変理解があり、多くの優秀な生徒を工学部に送り出していた。現任で指導技術抜群で、まさに『教師の鏡』のような存在で多くの後輩教員から慕われている。再任用終了後も校祭に立ち、工学部を応援している。

武生は前任の沼津工時代バレーボール部の監督を経験したスポーツマン。何日も全力で事に当たり、先輩諸氏の信頼は大であった。このような経験から、大きな業績を残し惜しまれながら伊豆総合高へ異動した先輩仲野一樹（55回）から生徒会を創立の役を引き継ぎ、さらなる発展に奔走している。千葉は幼少期から剣道の道へ、その剣道の恩師であり、石川工・工学部建築の先輩である野藤正美（25回）宮城県議会議員の熏陶を受けた工学部へ。学部時代は、体育会剣道部で、元事業物監査長の森一郎大校友会福島県支部長のご指導をいただいた。現在、剣道部顧問として全国優勝を目指して生徒と共に汗を流している。以上4名の建築系教員の他、高原貴（電35回）、平澤大輔（土59回）、佐藤喜光（物62回）、石井大河（機65回）が、伝統校を支えている。

信州長野の伝統校飯田長崎高（現、飯田OIDE長崎高）出身の平澤は、前述の武生・千葉と共に静岡県に赴任。高校時代は春の選抜囲碁高球部で優勝した名門星野部で栄え、学部時代は体育会柔道部も活躍し、柔道部の監督として生徒と共に汗を流している。工学の他学科の免許状も取得した合格者である。佐藤は中・高校時代陸上競技部で活躍し武道部の範を示し、大学院修了後母校帰り。石井は沼津工出身、恩師であり先輩である高木行博（機20回）の薦めで工学部へ、体育会サッカー部の主将の経験を持つスポーツマン。このように、8名も校友教員が活躍していると評価されている。

富士・箱根・天城の連山を助ける間に仰る景勝の地、伊豆市に、大仁高と修善寺工高が統合し伊豆総合高が開校。この新設校に、伝統校浜松工髙で生徒会主任として創立100周年行事を見事に成功させた立役者仲野一樹（前述）が、今春卒業して下校。仲野は着任早々修善寺工高時代から特色ある部活動として地域に密着し大きな業績を打ち立てた郷土芸能部の顧問に就任。全く新しい若者への挑戦であったが、前任の浜松工時代に見せた責任感、そしてたくましい指導力・探究心、本年度の全国高等学校総合文化祭（文京選）墳丘大会・郷土芸能部門（和太鼓）で々々第3位という実績を打ち立てた。そして仲野と共に建築界の資格を持ち今春卒業した河村達哉（62回）は、3年間特別支援教育に従事した経験から、幅広い教育観を持っている。そして資格取得を奨励している工高において自ら建築学の資格を取得して教育に従事している姿は、生徒から大きな信頼を受けていっている。島田工・工学部の先輩である仲野の後姿を見て若さを武器に全力疾走している。

県内県の拠点校沼津工高と言えば進路指導主導10余年のペプサ監督（前）を抜きにしては語れない。修善寺工高から学部へ、卒業後引き続けて（現、浜松湖北高校）を経て沼津工高へ、工学部高校の地域の農業界を密接な連携を必要とし、特に沼津工高のような伝統校では、地域の産業・企業の特性をしっかりと把握しているのが大変であり、さらにはが工学部高校出身であることから生徒の気質・特性を理解している高木ほどの存在が、必要となっているようである。過去多くの工学部入学者が作るのひとつに高木の母校愛の賛である。高木の高木には若き島田工出身の大石太（61回）が、大高は生徒思い、指導力が優れており、先輩教員の信頼が厚い。高木と共に母校に大きなエネルギーを送り続けている。

静岡・清水工学部を熱心に発足した科学技术高は、大澤俊彦（土27回）、小澤卓朗（機52回）、田中敏治（土61回）が、大澤は校友会東海支部長として大きな力を発揮してきた。小澤は沼津工出身、担任であった高木の薦めで工学部に、現任校友会教員会静岡県支部長として大澤と共に若き校友教員が多い県内をしっかりと繋げている。田中は島田工出身、学術中特待生にも選ばれた、心平気の優秀な若者の代表である。

『東海道唯一の工高を目指したい』というスローガンのもとに開校した県内工高は、50余年の間、多くの優秀な生徒を工学部に送り出して来た。直近5年だけで、毎年10名前後の入学者がいる。卒業後は、企業・官公庁で活躍しているがとりわけ工高において教職に従事している校友が多い。

その島田工高には、共に母校帰りの石川剛（52回）、土井康光（土55回）が、一級建築士の資格を持つ田井は民間企業を経て掛川工へ赴任、若さと情熱で教科指導・生徒指導に全力投球、特徴すべきはソフトボール部監督して全国大会に出場させたことである。そのチームの主将であった吉村光司（現・電4回）は、田井の背を追い工学部工学部に入学、関東の県教員選抜選考試（工業）に見事現役合格で來春県内の工高の教員に立ることとなっている。多くの生徒を工学部に送り育てている土井は沼津工
が初任校。田畑同様、教科指導はもちろんのこと、柔道部監督として生徒と共に汗を流し、生徒から絶大なる信頼を得ている。毎年建築学科を中心に多くの工学部志願者がいるもの２人の存在が大きい。

（私）静岡県には、島田工高時代生徒会長を経験し、民間企業から奨学金を得て赴任した藤本正喜（電54回）が、（私）磐田東高には、北の大地・北海道を含む南高出身の先田直裕（物化57回）が熱意で奮闘している。

■ 近間・中国・四国編
近年この地域からの入学者は減少しているが、かつては学部在籍者の1割強の数を占めていた。

村田竹十郎（10回）は、京大農学部技官を退職し、入学して来た熱血の人。卒業後はラグビーの名門校であり京都の工業界を支えて来た伏見工高に出任。多くの建築人を育てた。その伏見工高は、江戸16年洛陽高と統合、京都工学院高として発足、来春後の卒業生を送り出し、100年近くの歴史に幕を閉じる。

吉備の国・岡山県には、年年工高教育に大変な業績を残され今春退職された鹿野昭宏（機27回）が。鹿野は県北の工業教育の観点校である津山高出身。学部時代には、校友会特別顧問である佐藤光正（機9回）先生の蔵を受ける高校教員。自ら高校高校出身ということもあり、生徒の気質を創んだ教科指導、生徒指導を展開。母校の躍進の中心として活躍された。この実績をもとに今尾工高の長に進める。今秋岡山県で開催される工高生の最大イベントである「工高生もしくはコンテスト全国大会（中国大会）」の準備の責任者一人として関与され、遠く離れた母校の事をいつも気に掛けていた。毎年27回開催されてきた校友会の会にも、遠路、公務多忙の中をかけるようにだった貴重な提言をお寄せいただかれた。

高知県には、高知工高を最後に退職された五百五十華千雄（15回）が、愛媛県には（私）松山聖陵高の渡邊孝司（29回）が、渡邊は卒業後民間企業に勤務したが、教職を志し退職。愛媛大で教員免許状を取得し教育界へという苦労人。校友会教育部会の前身であるアカゲン教育研究会の設立には遠路松山に駆け寄り教員として活躍された。遠く離れた母校の事をいつも気に掛けていた。毎年27回開催されてきた校友会の会にも、遠路、公務多忙の中をかけるようにだった貴重な提言をお寄せいただかれた。

■ 九州・沖縄編
九州のための国・熊本県の大分県立日田林工へ赴任。半世紀過ぎた今も同校から学びているのも麻生がその道を開いた立役者。その後工高の中心校である大分工高に赴任し、ガワの工学部へと進む。国高、県高、校高の銘を持つ理事長の道へ、海潮科高校長を経て、躍進を創出する100年の記念事業を創出する青い海の地である大分工高校長に任じる。定年退職後は講師として専門学校の校長に。平成36年秋の秋帆では水気の教育労務により「瑞宝小紋章」の栄誉を受章された。これは工業教育のみならず高校教育・産業教育の振興・充実に際するリーダーとして大きな業績を残されたことが認められたものである。しかるに多くの人々から敬愛されているもの後輩教員に対する思いやり、そして強い母校愛である。県内の校友教員が麻生から受けている恩恵は計り知れない。校友会教務部会の設立時には、遠くからお出いでいただき大きな力投だった。現在も元気で市民の地から母校の発展に声を援いていた。その後も村田工高の教員を背負っているのが、腳踏役（32回）、中野幸（電44回）、佐藤新太郎（機48回）の諸氏である。

近代建築の巨匠である築野里広、曾孫藤原の二種の山口に伊東忠夫、吉田五十後の「建築家三世目の文化動向」を受章した村野耕を生んだ由縁ある国柄でもある佐賀県。その佐賀の中学を卒業後農業で暮らす村田市の教育委員に勤務、現在は早島町上に、卒業後は当時の建築学に注力した短期大学教員で今や、その教員として活躍していた。その後も同校が九州の特有の文化の一つとして活躍しているが、独自の特色を有するものである。この学科は東京都立工芸工業（現、西京極市）に勤務しながら、数々の技術を駆け出し15年後には博士号を取得された。大学においては学科主任・学部長の重責を負い活躍された。在職中、主に西日本各地の校友教員さんが大変活躍された。創立113号には、後藤のかけて寄せていただいた。ぜひ一読を念願したい。退職後は佐賀の地への第二の故郷でもある郡山へ大きな声援を送っている。

肥前国の山県区では、熊本工高で水戸高教員を取られた志賀義（24回）が、志賀は建築学をはじめとする工業工学科を教鞭を執り、来春創立120周年を迎える県内屈指の伝統校、熊本工高の出身。就職実績はもちろんのこと春夏通算40回の甲子園出場の野球部を始めとする部活動の活躍は広く知られたところであるが、国公立大学進学者の多い。その国立大学進学者数も理工学、工学部を除く工業学部の数は、あくまで工業工学科（10学科）からの進学者数である。工高は地域産業の担い手となる有為な人材を育成して「就職人数も進学人数もできる」というのが本来的な姿である。また生徒の部活を大切にしているが、後進のための寄付をしていただいた。ぜひ一読を念願したい。退職後は佐賀の地への第二の故郷でもある郡山へ大きな声援を送っている。
第60回日本大学工学部学術研究発表会
日時：平成29年12月9日（土）

＜建築学部＞ 第1会場：703教室＞
・RC構造物の断面修復部を模擬した供試体の屋外暴露試験による防ぜい性保護材の性能に関する検討
  ○岡田明也、渡辺幸雄、遠藤俊雄、清村克宣
・供試体形状と板厚速度の違いがポリマートーレントの圧縮強さに及ぼす影響
  ○西田 電、齋藤俊克、出村克宣、掛川 勝
・造形用ポリマートーレントの配列に関する基礎実験
  ○塚田真之、濱田幸明、浅利和茂、白井伸明
・２方向入力を受けたRC柱の挙動挙動モデルによる挙動予測
  （その1 解析モデルの概要）
  ○塚川真之、濱田幸明、浅利和茂、白井伸明
・２方向入力を受けたRC柱の挙動挙動モデルによる挙動予測
  （その2 解析モデルの検証と載荷方向をパラメータとした検討解析）
  ○濱田幸明、塚川真之、浅利和茂、白井伸明
・１質点系模型を用いた減衰評価の検討
  ○渡辺拓哉、千葉正裕、日比野巧、遠藤俊雄、塚川真之
・CLTパネルを用いた鋼板軸打ドリフトピット接合部のせん断耐力
  による弾性床上の梁理論による数値解析
  ○野内英治
・CLTパネルの機械的性質に関する実験的研究 －3層4プライ正方形断面材の圧縮試験
  ○五十嵐一史、野内英治
・Loveの仮定に基づく三次元梁理論
  ○倉田光春（工学・上席研究員）
・Loveの仮定に基づく二次元梁理論
  ○前島崇朗（五洋建設㈱），倉田光春，野内英治

＜建築学部＞ 第2会場：703教室＞
・景観まちづくりに関する研究 －景観まちづくり活動内における心理量評価実験の有効性
  ○真中健吾、上田吉雄、鈴木 晃
・東北6県における現存する地域文化の実態
  －東北地方に現存し歴史を持つ劇場空間の実態と役割についての研究－
  ○関根伸明，浦野智也，渡邊洋一，武田健太
・小学校における教室壁を利用した授業に関する研究 －木質壁とRC壁の教室の比較分析
  ○小田貴彦，浦野智也
・地域交流施設の工事と活用に関する研究 －福島県内の山間地域における調査分析
  ○高橋真弘，浦野智也，樋口孝史，芳賀浩義，曽田克志，渡邊洋一
・中山間地域における単独世帯のある居場所の考察
  ○中村幸輔，篠原克也，市岡善治，市岡光子
・会津若松市における地域の利活用
  ー版倉本の森をケーススタディとしてー
  ○市岡優，相田 千
・須賀川市におけるまちなかマーケットを活用したまちづくり活動
  ○GHQ文書に見る第二次世界大戦後の建築法制の評価
  ○鈴木 光，長尾康輝，市岡善治
・福島県内の災害対応住宅と復興公営住宅の遮音性能測定事例
  ○風車音響解析における風速の校正手法に関する研究 －JIS音響パワー、近接場4点計測による風速音響パワー計測の比較
  ○長谷久敏，田上幸子，川端浩和，菊池義弘，小垣哲也

学術論文

＊届け出があった記事を掲載

西田徹, 我妻宗雄, 藤光俊克, 出村克宜, 「竹補強ポリマートーレントの機械的性質におけるばす養生方法の影響」, コンクリート工学年次論文集, Vol.39, No.1, pp.1519-1524, June 2017
・岡田明也, 藤野俊也, 出村克宜, 「シラン系と無機系表面含浸材を含浸させたモルタル及びコンクリート供試体の屋外暴露12.5年後の性状」, コンクリート工学年次論文集, Vol.39, No.1, pp.1663-1668, June 2017
・塚川真之, 浅利和茂, 加藤隆也, 長沼洋一, 「3次元FEM解析によるRC構造物および柱断部の長期変形評価と高層骨組への応用」, コンクリート工学年次論文集, Vol.39, No.2, pp.55-66, July 2017
・工藤貞子, 鈴木晃, 遠藤俊雄, 大越俊貴, 他, 「地域ケア会議を想定した多対策による防災事例検討での住まいの見取り図活用効果」, 日本公営住宅整備, 64(4), pp.556-566, Sep. 2017
・浦野智也, 渡邊洋一, 岡田明也, 「東北地方に現存する芝居小屋の実態及び地域における役割に関する研究」, 日本建築学会計画系論文集 739号, pp.239-248, Sep. 2017
・原田太, Buntara S. Gan, 「Evolutionary Ant Colony Optimizationを用いた平面トラスの形状最適化」, 日本建築学会構造系論文集740号, pp.1601-1607, Oct. 2017
・西田徹, 我妻宗雄, 藤野俊也, 出村克宜, 長沼洋一, 「ポリマートーレントモルタルの圧縮強さに及ぼす供試体形状及び荷重速度の影響」, コンクリート構造物の補修, 補強, アップグレード論文報告集, Vol.17, pp.197-200, Oct. 2017
学 会 発 表

■ 2017年日本建築学会大会
日時：平成29年8月31日〜9月3日 会場：広島工業大学キャンパス（広島県）
・再利用フレキシブル樹脂を用いたボリマーシートメンタルの強さ性質に及ぼすポリマー混入率の影響
  ○西田順、吉川健一、北村俊夫、市原宏之、出村高
・塩化物イオン固定化材を用いた断面修復材料のマクロ構築抑制効果に関する考察
  ○高田充男、渡辺幸幸、齋藤良雄、出村高
・Observation of reaction products in FA based alkali activated material and geopolymer using FE-SEM
  ○西田順、吉川健一、北村俊夫、市原宏之、出村高
・Love及び断面無接縫の仮定に基づく剪断変形変形理論
  ○前岡克朗（五洋建設株）、倉田光春、野尻英治
・2面せん断試験によるCLT鋼板組入リンクのせん断耐力
  ○松本信彦（㈱木質環境建築）、川原重明、渡辺弘明、小野塚英史、浅尾和茂
・傾斜角度を考慮した5角形ガセットプレートにおける降伏引張耐力評価
  ○上田高之、堀川真之、浅尾和茂
・鉄骨高層構造建築の制振補強に関する研究
  ○星小百合（株式会社コンサルタント）、浅尾和茂、成瀬啓一、堀川真之、瀬下正平、曾我正正
・超弾性合金の配筋断面にヒンジリボケーションしたRC構造部材の構造性能評価に関する実験研究
  ○田部裕介（大阪市立大学）、喜本優男、Sanjay PAREEK、荒木慶一
・病院における事業継続計画及び廃棄物処理に関する調査報告 その1
  ○患者病院、長尾弘明、森山治
・病院における事業継続計画及び廃棄物処理に関する調査報告 その2
  ○患者病院、長尾弘明、森山治
・風車騒音の指向性と風向風速の関係について
  ○松本信彦（㈱木質環境建築）、川原重明、渡辺弘明、小野塚英史、浅尾和茂
・専用舞台を持たない地元歌舞伎の公開に関する研究　ー東北地方に現存し歴史を持つ劇場空間の実態と役割についての研究 その6ー
  ○武村健大、渡辺洋一、安藤尚徳、浦村智明
・統合後前後の教員空間の評価に関する研究　ー小学校の非構造的特徴ー
  ○長谷和敏、浦村智明
・中心市街地特性化におけるまちなかマーケットの有効性　ー福島県須賀川市で開催されたRojimaを対象としてー
  ○市原陽子
・原発事故による避難指示に関する研究　ー避難指示解除優先度を対象としてー
  ○佐々木光、浦村智明、森田崇志、荒井英志、早川真介
・福島県内における長期避難者の今後の住まい選択の研究　ーログハウス仮設住宅居住者を対象としてー
  ○渡辺昌治、浦村智明、森田崇志、早川真介、荒井英志
・地域交流施設の運営と施設利用状況の変遷に関する研究　ー福島県内の山間地域における調査分析ー
  ○田村真晴、浦村智明、佐藤卓史、荒井英志、早川真介
・地域交流施設の運営と施設利用状況の変遷に関する研究　ー福島県内の山間地域における調査分析ー
  ○田村真晴、浦村智明、佐藤卓史、荒井英志、早川真介
・近世相模大山寺における寺内・門前の使用と住宅
  ○田村真晴、浦村智明、佐藤卓史、荒井英志、早川真介

■ 14th US. National Congress on Computational Mechanics (USNCCM14)
日時：平成29年7月17〜20日 会場：Montreal, Canada
・A Two- node Beam Element by using Isogeometric Approach
  ○Buntara S. Gan

■ The International Conference on Advances in Computational Mechanics (ACOM 2017)
日時：平成29年8月2〜4日 会場：Phu Quoc Island, Vietnam
・Dynamic Response of API1000 Nuclear Island Due to Safe Shutdown Earthquake Loading
  ○Buntara S. Gan, D. K. Nguyen, A. L. Han

■ The 13th Korea Japan Joint Symposium on Building Materials & Construction
日時：平成29年8月16〜18日 会場：Hanbat大学校（韓国）
・Influence of wall effect of specimen mold on voids distribution and compressive strength of porous concretes
  ○Toshikatsu Saito, Katsunori Demura

■ The 6th International Conference of Euro Asia Civil Engineering Forum (EACEF 2017)
日時：平成29年8月22〜25日 会場：Seoul, South Korea
・Dynamic Response of API1000 Nuclear Island Due to Safe Shutdown Earthquake Loading
  ○Buntara S. Gan, D. K. Nguyen, A. L. Han

■ The 2nd International Joint Conference on Advanced Engineering and Technology (IJCAET 2017)
日時：平成29年8月24〜26日 会場：Bali, Indonesia
・Isogeometric Analysis for Beam Element
  ○Buntara S. Gan

■ International Multi-Conference on Engineering and Technology Innovation (IMETI 2017)
日時：平成29年10月27〜31日 会場：Hualien, Taiwan
・Semi analytical solution of a rigid pavement under a moving load on a Kerr foundation model
  ○Sofia W. A., Irene A., Shota Kiryu, Buntara S. Gan

■ 日本造園学会北部支部第17回支部大会
日時：平成29年10月14〜15日 会場：国際教養大（秋田市）
・須賀川市におけるまちなかマーケットを活用したまちづくり活動
  ○相原健太、市岡和生

■ 第76回日本公衆衛生学会総会
日時：平成29年11月2日 会場：鹿児島県民交流センター（鹿児島市）
・住生活ニーズ把握のための見取り図1・介護支援専門員研修の見取り図活用の実態
  ○阪本史子、工藤恵子、鈴木晃、他
・住生活ニーズ把握のための見取り図2・見取り図の描き方に関する検討
  ○工藤恵子、鈴木晃、他
■土方准教授は、7月11日、福島市より、あぶくまクリーンセンター焼却工場再整備事業検討会委員とあぶくまクリーンセンター焼却工場再整備事業基本構想策定事業選定審査委員会の委員を務められた。
■二里明教授は、8月5日、喜多方市より、喜多方市都市計画審議会委員を再度委嘱され、会長に選出された。
■土方准教授は、8月5日、喜多方市より、喜多方市長期未着手道路見直し検討委員会委員を委嘱され、委員長に選出された。
■市岡専任講師は、8月25日、会津若松市より、県立病院跡地活用懇談会委員を委嘱され、座長に選出された。
■土方准教授は、9月5日、白河市より、白河市景観審議会委員を再度委嘱され、会長に選出された。
■森山教授は、9月7日、ISO/TC21/SC11（排煙設備）の国際ワーキンググループの主査としてBerlinでの国際会議に出席された。
■9月11日、新潟市の東区プラザにおいて、「防災学会」を開催し、会長の後藤秀尚君（速水研3年次生）をはじめとする建築研究会災害対策研究班が講演された（創建164号参照のこと）。

参加者の記念写真
■土方准教授と市岡専任講師は、9月12日・13日、10月7日、白河市より景観学習事業の講師を務められた。
■速水教授と浦部准教授は、9月13日、二松松島文化開発推進基本計画設計業務委託プロポーザル委員を務めた。
■市岡専任講師は、9月19日、桑折町より、桑折町生活基本計画策定委員会委員を委嘱され、座長に選出された。
■浦部准教授は、9月26日、葛尾村で行われた平成29年度ステーショナル地域づくりフォーラムにおいて、「包括連携協定以降の日本大学工学部の取り組み」と題して講演された。
■浦部准教授は、9月28日、鈴田市大洋中学校区統合小学校施設整備検討委員会アドバイザーを委嘱された。

■森山教授は、9月28日、（一財）日本建築防災協会が主催する特殊建築物等調査資格講習会で講師を務められた。
■土方准教授は、9月30日、特定非営利活動法人こおりやま空港_by、セミナー「郡山市のまちづくりと空港問題」の講師を依頼された。
■市岡専任講師は、10月2日、国土交通省東北地方整備局より福島県における復興祈念公園基本計画検討調査有終委員会委員を委嘱された。
■森山教授は、10月11日、（一財）日本建築防災協会が主催する特殊建築物等調査資格講習会で講師を務められた。
■10月14日、渡部准教授が審査委員、濱田教授が実行委員長を務めた、第64回日本大学全国高等学校・建築設計競技の2次審査が実施された。
■10月14日、日本造形学会北東部支部第17回支部大会がスタジオにて、相田快君（市岡院M1）が、優秀学生賞を受賞して表彰された。

■10月27日、日本建築家協会（JIA）主催第21回東北建築学生賞で、13校14校学部応募総数40件中、柳沼明香さん（浦部研3年）の作品「歩く桜橋」が最優秀賞を受賞された（p.2参照）。
■森山教授は、10月27日、空間調和・衛生工学会創設100周年シンポジウム「大規模災害後のBPC・LCPにに対する給排水衛生設備の計画・設計と対策を考える」において「BPCとLCPを考えた給排水衛生設備計画・設計とは」という題名で講演し、討議に参加された。
■土方准教授は、11月5日、福島県より、福島県景観審議会委員を再度委嘱され、会長に選出された。
■11月25日、建築施工Ⅱの授業の一環として、福島赤十字病院新築移転工事現場見学会が開催され、3年生16名が参加した。
■12月2日、自主創造の基礎Ⅱにおける計画・歴史系演習課題として、富岡町3.11を語る会社会長青木望枝非常勤講師の口頭を聞き、その後の課題制作時には、語り部2名も参加し、学生の学習活動にご協力をいただいた。

教室ニュース
■市岡専任講師は、10月16日、福島テルサで開催された市民行進110周年記念事業「福島市景観まちづくりセンター」に、シンボルウィズ・パネラーとして登壇された。
■渡部准教授と市岡専任講師は、10月18日、国土交通省東北地方整備局より、福島県における復興祈念公園基本計画設計空設計デザインワークショップ委員を委嘱された。
■市岡専任講師は、10月19日、須賀川市より、須賀川市立地適正計画策定協議会委員を務められた。
■市岡専任講師と市岡研究室は、10月20日、須賀川市議会からの依頼により制作した議場パネルブックの完成報告を、須賀川市議会議員長等関係者に行った（須賀川市議会議員長佐藤瞭二氏は、本学科OB）。

■市岡専任講師は、12月3日、須賀川市歴史文化基本構想策定事業第1回講演会「すかがわまち歩きツアー　藤と赤瓦を巡る」の講師を務められた。

議長・副議長との記念撮影
■10月22日、日本インテリア学会24回卒業設計展で、佐々木浩君（浦部研2年）の作品「犬の散歩に転じる～バイリンガルな建築～」が最優秀賞を受賞された。
■土方准教授は、10月25日、いわき市より、いわき市景観審議会委員を再度委嘱された。

佐々木浩君作品 バース